



深い泉

幸せな贈り物

はたして偶像崇拝のせいですか

ちがいます。もっと根本的な原因があります

少し前にソウル、汝矣島（ヨイド）純福音教会チヨ・ヨンギ元老牧師が、最近の日本地震と関連して「日本の国民が信仰的に見る時に、あまりにも神様を遠ざけて偶像崇拝、無神論、物質主義で行くから、神様の警告ではないかという気がする」と言ったことのために、多くのネチズンの反発を起こしたことがありました。日本人は子どもが生まれれば、神社に行って健康に良く育つようにと祈って、結婚式は教会でして、死んだらお寺で故人の冥福を祈るという話があるほど「多神教」の生活を送っている国です。ある論説委員が言うのには、聖書で旧約時代の神は「怒りの神」かもしれないけれど、新約時代の神は「愛の神」と解釈されるということで、そのような神が強力な地震を起こして、あれほど多くの人の命を奪い取るということは、新約聖書の教えに合うのか疑問だと話したりもしました。今、日本人が体験する苦痛と悲しみの前で、単純に偶像崇拝のせいだと話す前に、だれも言ってあげていない、さらに根本的な理由があるという事実を知っているでしょうか。

韓国には登録されたシャーマンが40～50万人で登録していないシャーマンまで合わせれば100万人を越えると言われています。この前、警察に捕まったシャーマンの50代女性のチョンさんは、お母さん（75歳）を殴って殺しておいても、堂々としていました。それとともに「自分がやったのではなく、神がした事だ、邪気を払わなければ新しい神をまつれないから仕方なかった」と話しました。チョンさんは、10代の時期、いわゆる悪霊にとりつかれる儀式

をしたあと、40年近く占いをしてきたシャーマンでした。チョンさんは、シャーマンが持っている霊験の能力に通じる靈感が今年の夏に消えたという考えに捕われたのでした。いろいろな努力をしたのに、一度消えた靈感が戻らないと信じて、とんでもないことに、すべての問題が自分のお母さんに邪が入ったためだと判断しました。正常なお母さんを常習的に暴行して殺してしまったのですが、チョンさん本人はもちろんのこと、二人の子どもまで、当然のことだと感じていました。「お母さんが、間違っているではありません。お母さんは神をまつる弟子で、おばあさんは本来、幼い時から邪気を持っていて、自分が神だと思っていたのでした」チョンさんと一緒に住んでいた12歳の息子と23歳になった娘は、いわゆる不浄に触るというお母さんの言葉に押さえられて、数ヶ月間、顔を洗ったり、髪を洗うことを遠ざけたまま、からだに水一滴もつけないで過ごしたりもしました。

一方、先月25日放送されたKBS 1TVの「消費者告発」では苦しい心で占い師を訪れる消費者の心理を悪用する超高価なお守りの真実を告発しました。製作スタッフが訪問した12ヶ所の占いの中で、9ヶ所が高価のお守りやお祓いをすすめました。数万、数十万円、ひどい場合は百万円を越えるお守りを販売する占い師を確認した取材陣に、高価のお守りはシャーマンが直接作ったものでないという情報提供者の証言が受けて確認のために探して行ったシャーマン用品の卸売街で、占い師とシャーマンの多くが購入して行くというお守りを発見できました。その中で相当数のお守りは、中国の業者で1つにつき十円

にもならない価格でお守りを大量生産するという事実を確認しました。

だれも教えない霊的存在の実体

もしかして、ふと人間の運命と運勢を左右して、呪いと災いをもたらす暗やみの勢力があると考えてみたことはありませんか。シャーマンに会って話を率直に聞いてみれば、共通の話を聞くことができます。確かに悪霊は存在すると確信していて、自分たちの運命と家庭の問題を解決できない程度でなく、みな破壊されていることを知ることができます。いったい人間を不幸にする実体は何でしょうか。

聖書はその名前をサタンあるいは悪魔、その手下を悪霊だと明らかにしています。創世記3章を見れば、目に見えないサタンは、目に見える蛇を利用してはじめてから巧妙な嘘で人間をだまして、神様を離れるようにさせました。その結果、人間のたましいは、サタンの支配を受けて、苦難と失敗の中に、願ってもいない苦痛と、分からない問題にもつれて混乱する人生を生きるようになったのです。いったいサタンはどんな存在で、どこからきたのでしょうか。ヨハネの黙示録12章9～12節を見れば、天から落ちた御使い、墮落した御使いだと話しています。エゼキエル書28章13～17節に、天国で音楽を担当していた御使いが高ぶるようになり、神様に敵対して、墮落して追い出されるようになったのです。テコンドーの有段者が墮落しても、その力は残っているように、御使いの能力を持って追い出されたサタンは、人間に現れて人生と家庭を崩して、社会と人間関係を倒して、墮落した経済を作り、暗やみの文化を作っています。特に神様を知らないようにさせて、神様と遠ざかるように事を計画します。サタンはいつでも巧妙に、神様ではない他の偶像をおがむようにさせます。そして、おかしい宗教を作って、無駄になるむなしい人生を生きるようにさせます。文化と音楽という名目で快楽を与えるふりをしながら、真の幸せを奪っていったり、暗やみの組織を立てたましいを荒廃させ、地獄に入る時まで人間を苦しめます。聖書は、このサタンが偽りの父で、滅ぼす者だと確かに明らかにしています。このサタンが人間をだます最高の戦略が、まさに偶像崇拜なのです。

このサタンの働きに勝つ道はないのでしょうか

聖書ははじめてからこの事実を明らかにしています。神様は、人間が本分を見つけることを願って、祝福することを望んでおられます。神様とともにいながら、その祝福を味わうのが人間の本来の身分です。魚が水の中にいれば、その他のことがみな解決されるように、人間は神様とともにいれば、他のすべてのことも解決されます。それで、神様はあなたを救うために、自ら被造物である人間の姿で来られて、十字架で死んで復活されることによって、人間の敵であるサタンの権威を打ちこわして、人間のすべての罪と呪いを解決して、神様に会えるように道を開いてくださいました。この方がまさにキリストであるイエス様です。イギリスの詩人ガイルズ・フレッチャーはイエス様をこのように描写しました。「道に迷った者にその方は道です。ボロを着た者に服であり、飢えた者に食べ物です。縛られた者には自由であり、弱い者に強さです。死んだ者にはいのち、病気になる者には健康であり、目が見えない者には光で、貧しい者には富です。再び失うことがない楽しみであり盗まれない宝物です」一言で、イエス様が人生すべての問題の解決者であるということです。だれでもキリストとして来られたイエス様を信じて受け入れれば、直ちに神様の子どもになります。だれでもイエス・キリストを信じる者に、サタンの力を制御する権威、悪霊を追い出す権威をくださると約束されました。神様は今でもあなたを愛しておられ、すべての呪いから抜け出す祝福の主人公になるように待っておられます。

あなたは大切な人です。

幾日もこんなことをするので、困り果てた
パウロは、振り返ってその霊に、
「イエス・キリストの御名によって命じる。
この女から出て行け」と言った。
すると即座に、霊は出て行った。
(使徒の働き 16:18)

福音 *gospel* とは？

神様は、天と地を作られた創造主です（創世記 1:1）。神様は全知全能で、聖なる方で、公平です（イザヤ 6:3）。神様は愛で（1ヨハネ 4:8）目に見えない霊で存在しておられます（ヨハネ 4:24）。本来の人間はこういう神様のかたちとして創造されました。そして、神様と一緒に幸せに暮らすように創造されました（創世記 1:27～28）。それで、人間は神様と一緒に暮らしてこそ、真の幸せを味わうようになります。これが神様の創造原理です。ところで、なぜ人間に解決できない問題が生じるようになったのでしょうか。初めての人アダムとエバが神様の約束を信じないで、サタンにだまされて罪を犯すようになり、これによって人間は神様を離れて、サタンに支配されながら生きるようになりました。サタンの目標は、人間が神様を知らないようにさせ、人間に絶えず苦痛と呪いをもたらして、結局は滅ぼすことです。アダムとエバが罪を犯したあとに、すべての人間は原罪を持って生まれるようになり、私たちの霊は神様を離れて、霊的に死んだ状態になり、悪魔の支配を受けるようになりました（エペソ 2:1、ヨハネ 8:44）。これが人間の根本問題です。その結果、迷信と偶像に陥って吉凶を占い、お祓いをして、善行もして見るのですが、幸せはなく、結婚や引越しをする日、方角、お墓の場所も自由にできない、生年月日による運命に縛られて生きるようになります（エペソ 2:2）。また、精神的な苦しみ、不安、不平、むなしさ、精神病、ノイローゼ、不眠症、うつ病、無気力など、おかしなろいに縛られて、家の背景が良く、知識とお金が多いのに、理由なく滅びるようになります（エペソ 2:3、マタイ 11:28）。これとともに不治の病、不平、暗い思い、悪夢に苦しめられて、金縛りにあい、病名もないのに全身が病気の苦痛を受けるようになります（使徒 8:7～8）。それでも神様を否認して現実だけに執着して生きて、結局は死に、地獄の永遠なさばきを受けるようになります（ヘブル 9:27）。もっと恐ろしいことには、これら全部の問題がまた再び子どもに相続されるということです（出 20:4～5）。

この問題をはたしてどのように解決しなければならないのでしょうか。その唯一の解決策は、ただ1人イエス・キリストです。多くの人が宗教、善行、哲学、科学などを通して神様に会おうと努力するのですが、人間自らの力では絶対に救われることはできません。福音は、神様ご自身が人間となってこの世に來られて私たちを救われたのです。その方がまさにイエス・キリストです（エペソ 2:8～9）。「イエス」は救い者の名前で、「キリスト」は「油を注がれた者」という職分を意味します。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道になられたまことの預言者です（ヨハネ 14:6）。イエス・キリストは十字架で私たちの罪を代わりに解決されたまことの祭司です（ローマ 8:2）。イエス・キリストは、死から復活され、サタンのすべての権威を完全に滅ぼされたまことの王です（1ヨハネ 3:8）。しかし、この事実を知ることだけでは、あなたの問題は解決できません。あなたが救われて、これら全部の問題を解決されるためには、ただ一人イエス・キリストを「私の救い主、私の主人」と信じて告白して、心に受け入れるべきです（ヨハネ 3:16、ヨハネ 1:12）。そうすれば、あなたの人生に驚くべき変化が訪ねてくるでしょう。

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。
私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち碎かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

だれが生きる ことが できます か？



イシノ

今でも事実と真偽の有無の疑問があるが、人類の歴史上、最高で最大の事故は、なんと1年間の水の騒動であったノアの洪水だったと思う。地球全体が水の中に浸ったこの洪水の証拠は、今でも高い山の頂上で、たまに見られる貝殻だ。当時、ノアは長さ150メートル、広さ25メートル、高さ15メートルである2万4千トン大きさの箱舟を作って人々を生かそうとしたが、結局、彼の家族と肉があるすべての生物の雄と雌の一組である35,000匹だけが箱舟に乗るようになった。箱舟は、航海能力がある船舶でなく、たんに水に浮かんでいるだけの単純で大きな姿のアスファルトで塗られたゴフェルで作った倉庫形態のボックスであった。しかし、巨大な規模の箱舟は、約462,686立法メートルの大きさで、約569両の貨物列車と同じくらいの貨物を入れる能力をそろえていた。こういう規模の空間には、約125,000匹の羊をのせることができた。当時の建築技術は分からないが、そのような程度の箱舟空間を作りあげようとするなら、多くの時間とともに動員される物資と人材の力はものすごかったと考えられる。その時代に経験してみることができなかったが、人間に近づく途方もない災いをあらかじめ知らせるノアと家族たちの証言は福音だったが、その日の楽しみに捕われた人々に、未来は小言に過ぎなかっただろう。結局、生かすメッセージを体で受けたノアの家族だけが生き残るようになった。

こういう証拠は、漢文にも資料で残っているのだが、ノアの家族が8人であったのが象形言語である船を現わす漢字にある。船という字は、舟と八、そして口の合成語で、船に八人の人が乗るという意味だ。結局、アダムとエバで始まった最初の地球は、ノアの八人家族で増加して、新しいいのちの働きを成し遂げるようになった。

神様は人を殺そうとするのではなく生かそうとされる。人間の計画は、だれも教えなくても罪に走って行って悪を考える。それで、宗教がこういう考えを調節して、教育が人間の価値を見つけさせてくれて、哲学が人生を光るようにさせる。いのちのための神様の計画は、人間が創造された世界である自然を治めることにある。産めよ、増えよ、地を満たせということは、人間にある資源の枯渇と環境の破壊と人口増加に対する問題を知らないと言われるみことばではない。絶対絶命の危機である大自然の攻撃と、人間自らの貪欲によって繰り広げられる所々の征服戦争は、本質を知らないで現れる現象であるだけだが、人ははたしてこのようなところで生き残れるのだろうか。宇宙のはじめに成された人間の選択の失敗は、時代を繰り返しながら、一度もその原則を抜け出したことはない。人間の努力がどれほど立派でも、創造主の価値の回復には何の使い道もなかったということが歴史の証拠だ。ただ価値がないと見られる伝道者の単純な話の中に含まれたいのちを生かす福音の内容だけが人生を生かす箱舟となる。まだ苦痛の洪水の中で、絶望の奈落で、さまよいの場で苦しんでいる人がいるならば、危機の雨が降る前に、足首まで満ちている苦痛の水が、私のからだをくるんで覆う前に、福音として迫ってこなければならない。

これがこんにちも存在する箱舟の理由だ。

チョン・ヒョングク_福音コラムニスト

*相談したい方はこちらまでどうぞ